

2020.7.13 山城

第147回 エゼチミブ錠 10mg 「KN」

小林化工 大山 剛様

参加者：猪野、青木、峯尾、
波間、番場、山城

脂質異常症の治療薬として現在スタチンが主流であるが、実際の診療ではその治療目標到達率は治療不十分の症例もあり、これに対しスタチン系薬の増量が行なわれているが十分ではない。この原因として小腸でのコレステロール吸収亢進が想定されており、メタボリック症候群症例や糖尿病で顕著であると考えられている。そこで小腸コレステロールトランスポーター阻害薬であるエゼチミブが注目されている。

【効能/効果】

高コレステロール血症、家族性高コレステロール血症

【用法/用量】

通常、成人にはエゼチミブとして1回 10mg を1日1回食後経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜減量する。

【特徴】

高脂血症の1つである高コレステロール血症の治療では、生体内でのコレステロールの生合成を阻害するか、食事などからのコレステロールの吸収を阻害することが基本となる。スタチン系薬は、主に肝臓でのコレステロールの生合成を阻害する薬剤であるが、これに対しエゼチミブは、小腸からのコレステロールの吸収を阻害することで高コレステロール血症を改善する。

コレステロールの吸収を担う小腸コレステロールトランスポーターに結合することで、胆汁性および食事性コレステロールの吸収を選択的に阻害する。結果的に、肝臓のコレステロール含量が低下し、血中コレステロールの低下につながる。いわゆる悪玉コレステロールが減る一方、善玉コレステロールはむしろ増加する。

【副作用】

重い副作用

重い過敏症：発疹、じんま疹、全身発赤、顔や口・喉や舌の腫れ、咳き込む、ゼーゼー息苦しい

横紋筋融解症：手足のしびれこわばり、脱力、筋力低下、筋肉痛、歩行困難、赤褐色尿

肝臓の重い症状：だるい、食欲不振、吐き気、発熱、発疹、かゆみ、皮膚や白目が黄色くなる、尿が茶褐色になる。

その他

便秘、下痢、腹痛、吐き気、発疹、肝機能値の異常など

【禁忌】

- (1) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- (2) 本剤と HMG-CoA 還元酵素阻害剤を併用する場合、重篤な肝機能障害のある患者

【考察】

今回、ゼチーア錠のジェネリックであるエゼチミブ錠の勉強会をした。先発品と同様のサイズ、形状、色調になるので今まで先発品を服薬してきた患者さんが服薬時に不安を抱かない点でとても良いと思う。1錠単位で成分名、薬効名、含量が確認できるPTPシートや識別性の向上で一包化の調剤時や監査時にミスが生じないようにされていたり、原薬が難溶性であるため、添加物の溶解補助剤により溶解性を高めるなど色々な工夫がされている。先発品との薬価差は100円以上もある。長く服薬を続けている患者さんのことを考えれば社会貢献の為もあるがジェネリック医薬品を推奨しなければならないし、ジェネリック医薬品は医師が安心して投与できる薬剤でなければならないと思う。